

食物栄養専攻に学ぶ本学学生の進路希望と 就職状況について

○梅原 頼子・福永 峰子・岡野 節子・山田 芳子

1. はじめに

長引く不況の中、大学生の就職率の低迷や就職難が叫ばれている。文部科学省の「学校基本調査」によると、平成15年3月に卒業した短大生の就職率は59.7%であった。過去最高の平成3年87.0%に比べると、短大生にとって厳しい就職環境が続いている。また、全国栄養士養成施設協会の栄養士課程および管理栄養士課程卒業生の就職実態調査結果によると、短期大学（三年生短期大学を含む）の就職率は72.3%であった。

本学の就職率は毎年90%を超え、栄養士としての就職率も高い。そこで今回は、学生の進路希望はどのようなものであるか。また、実際の就職状況を把握し、学生指導の資料とするために調査を行った。

2. 調査方法

調査対象	本学食物栄養専攻学生 160 名
調査時期	1992～1994 年、2002～2004 年の 4 月、12 月
調査方法	自己記入式によるアンケート調査

3. 結果

入学直後の進路希望は、「栄養士として就職したい」、「専門性を生かせる職種で就職したい」と答えたものが、10年前81.8%、現在88.6%と希望は高い。卒業目前になってからの進路希望は、10年前61.6%、現在78.7%と両者とも減少している。変更理由としては、「栄養士に向いていない」、「大変な仕事だから」、「規則正しい生活がしたい」などであった。実際の「栄養士」「専門性を生かせる職種」での就職率は、10年前46.4%、昨年度卒業生62.1%であり、さらに減少した。今年度卒業生は50.0%（1月11日現在）、未定者は37.5%である。

4. おわりに

現在の学生は10年前に比べ、入学直後、卒業目前においても栄養士または専門性を生かした職業に就きたいという意志が高くなっていることがわかり、さらにその意識を高めるために手助けしていきたいと感じた。また、卒業目前の進路希望が実際の就職状況では必ずしも叶っておらず、就職先の開拓が必要と感じた。